

# かがやく

## ハーモニーひたちなか

第11号

2011.9発行

編集/発行

ハーモニーひたちなか

ひたちなか市女性生活課

### 特集!! 東日本大震災

#### 震災

空を見る  
空を見上げる  
あの空の  
あの人がいる

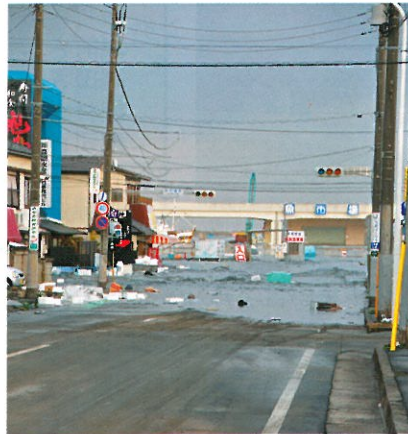
花が咲いた  
花が舞った  
あの人には  
何を思っ  
て 花を見るの  
だろうか

自然の酷さ  
自然の美しさ  
折れそうな心  
生きていてほ  
しい ちぎれ雲  
に託す  
ただ生きてい  
てほしい

余震がきた  
また壁がおち  
る  
私の心も落ち  
る  
想い出が一緒  
に砕ける  
なみだ色の空  
がひろがる



▲小环良子さんの作品



▲津波が襲う魚市場



▲被災後営業再開した店舗



▲液状化で全壊した河川口



▲寸断された道路

今回の大地震で避難生活を余儀なくされた方も数多くいました。避難所では女性ならではの問題に配慮しなければなりません。内閣府は各避難所における女性のニーズを反映した取組みを公表し、女性更衣室や女性専用の下着干し場の設置などの事例を紹介しています。

7月1日付毎日新聞には、福島の場合として「避難所の仕切りの隙間から中をのぞく人がいる」「女子トイレ周辺をうろろしている男がいる」などの情報から、県警が女性警官5〜6人のチームで各避難所を回り、被災者の相談を受けたとの記事が掲載されています。

市の第2次男女共同参画計画にも「地域防災・災害復興活動における女性の参画促進」が掲げられており、今後、防災復興に関しても、より多くの女性の視点が求められるでしょう。



# インタビュー 災害で活きた地域のちから・たすけあい



忘れない、しかし決して忘れてはいけない3月11日、当市でも多くの地震被害が出ましたが、加えて那珂湊沿岸では、津波に見舞われた家屋が317軒ありました。(8/19現在 市資産税課調べ)  
 本日(6/21)は、那珂湊地区で津波の被害を受けた方7名にお集まりいただき、市民の立場から当時の様子や被災後の暮らしなどをお伺いしました。



▲間淵さん、竹永さん、磯前さん

## 出席者

- 磯崎さん
- 磯前さん
- 岡田さん
- 櫻村さん
- 郡司さん
- 竹永さん
- 間淵さん



▲津波で道路や車が冠水

司会 皆さんのお住まいは、床上浸水と伺いましたが、ダブル被災で大変な思いをされましたね。その時の状況を教えてください。

間淵 家で津波警報を聞き近所の3人を榎原神宮に避難をさせ、戻るともう津波で入れませんでした。夜は家に戻り2階にいました。街に人の気配はなく、流された車のクラクションが鳴りっぱなしでした。

竹永 地震直後、近所の年寄りを親戚宅に送り、戻ってみると家のなかは、めちゃめちゃで、そのまま近くの避難所で4泊しました。

磯前 隣人の車で避難し、夜中に家に戻り2階にいました。

櫻村 家にいました。津波警報を聞いて貴重品を持ち、避難所に3泊、その後は家の2階に住んでいます。

磯崎 外出先で、津波を知り公園に避難しました。夜は平磯小の校庭で、家族と車のなかで過ごしました。

岡田 家にいました。防災無線で津波を知り、公園に逃げました。そこから3層になってくる津波を見ました。



▲櫻村さん、磯崎さん、岡田さん、書記、郡司さん

郡司 パン屋さんにいました。夢中で家に帰り、貴重品と孫の布団を持って家を出ましたが、その時は腰のあたりまで水で、すごい恐怖を感じました。水の勢いに流されながら歩いて行くと、近くに避難していた人が助けに来てくれました。有難かったです。

司会 何故、布団を持って出たんですか。

郡司 分かりません。パニックですね。布団が濡れて重かったのに夢中で抱えていました。後で息子になぜ放さなかったのかと言われました。(笑)

司会 津波が引いた後の生活はどうでしたか

全員 毎日ヘドロの撤去でした。睡眠不足でへとへとでした。

櫻村 流された魚が、ヘドロと一緒に家に入り込んで臭くて、臭くて。

間淵 水につかった畳の重いこと、大変でした。

司会 皆さんは、津波は想定されましたか？

櫻村 私が逃げる時も、地震のあと片づけをしている人が多かったのも、だれも想像しなかったと思います。

竹永 チリ地震でも津波は来なかったのが安心していました。

間淵 私もあの日まで、ここに津波は来ないと思っていました。

司会 お店を経営している方もいらっしゃるようですが、再開はいつでした。

磯崎 仕出し屋をやっていますが、1ヶ月後に再開しました。仕事は大変でしたが、この震災で夫婦の協力体制は強くなったと思います。

櫻村 雑貨店ですが4月26日に再開できました。お客様にせかされたのが力になりました。

司会 あの日から3カ月を過ぎて、少し落ち着いたと思いますが津波を体験して皆さんに伝えたいことは何でしょう。

間淵 液状化した場所が多かった。土地購入のさいに(地盤の)確認は大切だと思います。

磯崎 子供たちに引き潮の知識をしっかりと伝えたい。  
 岡田 家族全員で避難場所の確認をしたいと思っています。

全員 食料の差入れ、片付けの手伝いが有難かった。  
 郡司 失ったものは多いけれど人の情け、絆が身にしました。当たり前前の生活が最高だと感じています。

今回のインタビューで、震災で被害を受けた方々から貴重な体験を伺いました。なかでも、「ご近所、友人から受けた励ましが、復興の後押しになりました」との言葉が心に残ります。改めて地域の繋がり、人との絆に思いを寄せています。そして、日頃より家族や近所の人達と災害に備えての準備が必要だと強く感じました。



▲片付けをする市民ボランティア

## 高齢期の暮らし方～震災を経験して～

3月11日に遭遇した東日本大震災。この千年に一度といわれる未曾有の大震災を経験して、これまでの暮らし方はこれでよかったのか。いまだに続く余震の不安と戦いながらこれからをどう暮らしていくか考えさせられた方も大勢いると思います。

ハーモニーひたちなか会員からも、自立した生活とはどういうことなのか、改めて考えさせられた感想が寄せられました。



### 高層マンションに暮らして

ハーモニーひたちなか 会員 松本由美子

東日本大震災で、マンションの自宅は、書棚、箆筒類、食器棚などの家具類が転倒し、中身が散乱、文字通り足の踏み場もない状態でした。停電でエレベーターは止まり、もちろん水も出ません。当日は駐車場に停めたマイカーの中で寒さと余震に震えて夜を過ごし、日中は家の片付けに入るものの、余震の怖さもさることながら、マンションの高層階で緊急事態が発生した場合を考えると、落ち着いて寝ていられませんでした。よって翌日の夜から本格的な避難所生活が始まりました。

避難所として利用させていただいたのは小学校など公的機関。それに井戸を持っている知人宅や親類宅。茨城空港が再開してからは兵庫県西宮市に住む長男一家宅に身を寄せ、結局2週間以上マンションの自宅では寝ることがありませんでした。

駅近のマンションを終の住処にしたのは、マイカーを手放しても公共交通機関が利用しやすいことや買い物に便利なことなど、老後の快適な生活を視野にいれてのことでした。

しかし、今回のようにエレベーターが長い間止まることや、復旧してもいつ止まるかという不安がなかなか払拭できないことなど予想だにしませんでした。今回は夫婦とも元気で、自力で歩けたし、水や食糧など重い荷物を提げて何とか階段を上り下りできる体力がありましたが、体力がなかったり、1人暮らしであったらどうでしょう。非常時に近隣の世話になったとして、もし私を助けるためにその方が命を落とすことになったとしたら、それは本意ではありません。一戸建ての生活であっても、自力で歩いて避難することができないとしたら、と想像すると、本当に自立した生活とはどういうことなのか、今回の大地震で、高齢期の暮らし方について、改めて考えさせられました。



## 男女共同参画講座 ほっとme! 私だけの癒しタイム

東日本大震災からやっと日常の生活を取り戻しつつあります。どことなく強張っている心と体をほぐし、癒してあげたい! そんな想いを込めてひたちなか市では、6月17日、24日、7月1日に男女共同参画センターにおいて、連続講座を実施しました。

### 第1回 心と体のリラクゼーション

講師：バランスセラピスト  
木村伊都子さん

### 第2回 こころのセルフケア

講師：臨床心理士 小原昌之さん

### 第3回 わたしの花レシピ

講師：男女共同参画センター職員

参加された30代～70代の皆さんから回答いただいたアンケートでは『気持ちが落ち着いた』『90分があっという間』『ぜひシリーズ化を』など、今回の講座がいかにタイムリーで濃い内容であったかわかる感想がよせられました。

ほかにも参加者からはこんな声も。「やさしい香りや音に包まれながら、自分と向き合い、隣の人とほほ笑みあえる豊かな時間になりました。」「3回の講座に共通していたのは、『すぐにできて、家族にも与えられる』ことでしょう。」

今回の『癒し』の講座が大成功だったことは、参加された方々の帰りがけの晴れやかな笑顔によく表れていました。癒しから復興への一歩を踏み出しましょう。

## 平成23年度ハーモニーひたちなが総会開催

平成23年度総会が5月13日(金)男女共同参画センターで、23名の出席を得て開催されました。

議事では平成22年度事業報告、収支決算、監査報告が承認されました。また、23年度事業計画(案)として学習会や講演会などの会員研修やリーダー研修や交流会、フォーラムやフェスタ等とそれに伴う予算(案)が議決承認され、総会終了後、筑波学院大学名誉教授の長田満江氏より講話がありました。

これからもハーモニーひたちなかの活動をとおして男女共同参画の意識を広めていくことが大事だと思います。

ハーモニーひたちなかは男女共同参画センターを拠点とし、男女共同参画社会の実現を目指す市民団体の連合体です。平成23年度は次の14団体で活動しています。

●WING●おやこ劇場ゆめひろば●ひたちなか商工会議所女性会●新日本婦人の会ひたちなか支部●パートナーシップ・イコール会●ひたちなか市更正保護女性の会●ひたちなか市女性会●わだちの会●生活クラブ生協ひたちなか支部●火曜会●青春会●レッツ・ビギン●さわやかウォーキング会●シルバーリハビリ体操指導士会(順不同)

※男女共同参画とは、男性や女性という性別に固定されず、人として暮らしやすい社会をすることを目的としています。市内で活動している方や団体のみなさん、ハーモニーひたちなかと一緒に活動しませんか。

お問合せは男女共同参画センターまで。

### 11月は男女共同参画強調月間です。 ハーモニーフェスタ2011を開催します。

#### ○ハーモニーひたちなかフォーラム

日時：11/26(土) 午後1時30分～午後3時30分

内容：男女共同参画推進事業所表彰

男女共同参画キャッチフレーズ表彰

トーク&コンサート



「君は君のままで」

講師：樹原涼子さん

(作曲家・ピアノ教育家)

#### ○ハーモニーフェスタ2011

日時：11/27(日) 午前10時～午後3時

内容：各団体による展示・発表

 お問合せは男女共同参画センターまで 

TEL&FAX：029-354-0167

E-mail：danjo282@juno.ocn.ne.jp

### 編集後記

今回の編集にあたって、いろいろな方から、3月11日の体験、その後のご苦労などを聞く機会がありました。

瓦が崩れ、塀は倒れ、家の中のものは散乱し、たくさんの被害を受けました。また、怖い思いもしました。多くの物を失いましたが、ご近所の絆、家族の絆、得られたものも：少し心が癒されます。

この絆をこれからも大切に、さらに強くなれたらいいなと思います。

(H・H)